

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】

<学校の現状>

- ・「あいさつ・返事・靴そろえ」を継続した基本方針として示し、当たり前のことを当たり前実践できる児童の育成を目指す。
- ・素直で元気、真面目に努力する子が多い。学校行事やスポーツ大会など明確な目標に対して一生懸命努力する。低、中学年は落ち着いた授業態度を身に付けつつあり、また高学年児童を中心に主体的に活動する姿も見られるようになった。
- ・経験の少ない教師が過半数を占める中、指導力向上は引き続き重要な課題である。若手教員のみならず他区から本区へ異動してきた教員の指導力不足にも課題がある。昨年度から始めた校内研究や若手、中堅研修、授業観察や指導、学力定着推進委員や教科専門員の先生方の丁寧な指導を受けて、徐々に指導力が高まって来たものの引き続き課題である。
- ・PTA、保護者や地域の方々は、学校の教育活動に理解を示され、大変協力的である。

<前年度の成果と課題>

○学力の向上

- ・授業規律が確立し、集中して学習に取り組める児童が増えた。学力の向上は十分とは言えず、これを安定・定着させるためにさらに充実した指導が必要である。

○幼保小中連携

- ・幼保小の連携においては、谷在家保育園及び沼田保育園（足立このみ保育園）との連携を進めた。小中連携においては、西新井中学校、西新井第一、第二小学校とのブロックで連携を深めた。

○心の教育の推進

- ・昨年度から始めた道徳の校内研究の成果が徐々に表れ始めている。今後さらに日常的な道徳的判断力と実践力に結び付けていくことが課題である。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組の概要**重点的な取組事項－1 授業力の向上並びに学力の向上**

～4月の区学力調査問題の各学年の通過率80%を目指す。～

- ・授業規律を定着させるとともに、学習環境を整え、授業に集中できるようにする。
- ・基礎的基本的な学習内容の定着が図れるよう、授業及び家庭学習の充実を図る。
- ・学力調査の結果について詳細を分析し、つまづきのある児童に対しての個別の指導を充実させる。

重点的な取組事項－2 幼保小中の連携

～連携の推進と円滑な接続とともに欠落のない接続を目指す。～

- ・幼保小の連携は、谷在家保育園、足立このみ保育園両園と連携を進めていく。
- ・小中の連携は、通常級は西新井中、西新井第一小、西新井第二小と、特別支援学級は鹿浜菜の花中学校と連携を行う。鹿浜菜の花中学校とは進学児童の実態も加味し、年2回の交流を行なう。
- ・教員の交流だけでなく、園児と児童、児童と生徒との交流などを実施する。

重点的な取組事項－3 心の教育の推進

～自他を尊重する気持ちと態度の育成～

- ・「あいさつ・返事・靴そろえ」といった集団生活・社会生活を円滑に営む上での基礎的・基本的なことが、きちんと当たり前に行える児童を育成する。
- ・日常の道徳の授業及び道徳的指導の充実を図るために校内での研修を充実させる。
- ・交流活動の充実を図る。
- ・伝統文化や地域や社会とのつながり、環境を大切に活動する活動を推進する。

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性**重点的な取組事項－1 授業力の向上並びに学力の向上**

○パワーアップタイムの充実

- ・朝昼2回の実施を引き続き行ないつつ、実態を考慮した内容を系統的に実施する。（朝8時20分から40分、昼13時20分から35分）パワーアップタイムの内、朝の時間は読書的な活動に全校で取り組み、理解力、活用力、表現力の向上を図る。特に朝の読書は1時間目の導入がスムーズになり成果が見られた。また概ね月1回程度の音読・群読の時間を新規に導入する。昼のパワーアップタイムにおいて、課題分析に基づく系統的な学習課題を段階的に実施し、評価・改善していく必要がある。

○放課後補充指導、補習指導の充実

- ・「東京ベーシックドリル」「習熟度プリント」などを教材として活用するとともに、学力調査の結果について詳細を分析し、つまずきのある児童に対しての個別の指導を充実させた。他の学校行事との兼ね合いで実施できない時もあったことが課題である。行事予定及び校内時程の見直しをし、改善を図る。
- プレジデントタイムの実施
 - ・夏季休業中の補充教室からの取り出し指導及び昼休み～昼のパワーアップ（13時10分から45分）の指導に管理職が関わり、基礎学力の向上を図る。主に2年生を対象に実施したが、他の学年の児童をどのように取り込んでいくかが課題である。次年度は放課後補習の時間も活用し改善を図る。
- 教員の授業力向上に関する取り組み
 - ・校内の若手教員研修会を立ち上げ、計画的に実施運営し、若手教員の育成に力を入れる。（年間30回実施）一方月1回のミドルリーダー研修会を実施については、まだ恒常化しておらず、改善が必要である。
 - ・毎週の学習計画を確認し、管理職が定期的に授業観察を行い、授業力向上に働きかける。授業観察後は「アドバイスシート（別紙資料）」を渡し、校長が指導助言を行うとともに、授業力向上へとつなげた。

重点的な取組事項－2 幼保小中の連携

- 連携の推進と円滑な接続を目指す。
 - ・幼保小の連携は、谷在家保育園と足立このみ保育園との連携を行う。また小中の連携は、通常級は西新井中学校、西新井第一小、西新井第二小と、特別支援学級は鹿浜菜の花中学校と連携を行う。教員の交流だけでなく、園児と児童、児童と生徒との交流などを計画的に実施することができた。特に保育園との連携においては、校長が両保育園に出向き、次年度、1年生に入学する園児の保護者向けに子育て講演会を行うことができた。（谷在家＝1月22日、足立このみ＝1月16日）
 - ・次年度は鹿浜菜の花中ブロックでの連携に切り替わる。

重点的な取組事項－3 心の教育の推進

- 「あいさつ、返事、靴そろえ」
 - ・あいさつに関しては、6年のみならず3～5年生、児童会も交え、活性化を図ることができた。特に昨年度よりは、一度立ち止まって挨拶をする「ワンストップ挨拶」を児童に呼び掛け、成果を挙げた。しかしまだ十分とは言えず、今後も継続した指導が必要である。
 - ・教室では、学習ルールの基本として「はい。立つ。～です。」を共通し、各学級で実践してきた。その結果、丁寧な言葉遣いを意識できる児童は増えてきたものの、十分定着しているとは言い難い。継続した指導が必要である。
 - ・靴そろえに関しては、各担任も目を配るとともに、各学級で係児童も管理する等、すすんで実践する姿が見られた。今後も継続していく。
 - ・授業観察時に道徳の授業を行うよう働きかけることや、年間40号発行した「校長室便り（校長から職員に向けた情報紙）」で道徳について扱うことを通して、教員の道徳教育に関する意識に変容が見られた。
 - ・道徳授業地区公開講座講演会において、通年でご指導をいただいている道徳の講師に来ていただき、保護者、地域の方々向けに、講演会を行う。模擬授業を行い、実際の道徳の授業がどのようなものなのかを体感していただく。またその講演会の中で、道徳の教科化についても触れ、浸透を図る。
 - ・なかよし学級と通常学級との交流活動、他校の特別支援学級との交流行事を行う。
 - ・校内俳句コンクールを2回実施し、毎回、校長賞、副校長賞、鹿一小を選出する。
 - ・地域の昔遊びや伝統文化に関する授業を行う。
 - ・4年生はプロネイチャリストの講演や、エコプロジェクトの参加を通して、環境教育に関する理解を深めた。また5年生は、鋸南自然教室において、海浜清掃や環境教育に関する理解と関心を深めた。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

- 登校時の「あいさつ運動」には、PTA会長、各学年のPTAの皆様、パパズ（父親の会）にも積極的にご協力いただきました。子供たちのマナー向上だけでなく、安心・安全な学校づくりにも効果的な取り組みとして、大きな成果を挙げています。
- 谷在家、押部町会の交通安全運動、祭礼、餅つき会、PTA「鹿一村祭り」など、子供たちのために様々な活動を行ってくださり、いつも大変感謝しております。
- 運動会や展覧会、音楽・学芸的発表会、持久走大会などにも、大変多くの方の参観をいただき、感謝申し上げます。学校公開や授業参観に関しても、積極的にご参加いただき、ありがとうございます。子供たちの日常の様子についても、より多くの方にご覧いただきたいと思っております。
- 学校の様々な活動の様子について発信しているホームページとブログは、12月末現在80037アクセスを記録しました。宿泊行事の際などには、1日に400から500のアクセスがあり、日頃より多くの方々に応援していただいていることに大変感謝致します。今後も積極的な情報発信を行い、学校からの情報が保護者や地域にとってより身近なものとしていくよう努力してまいります。

2. 平成30年度の重点的な取組事項

<達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る>

重点的な取組事項－1 授業力の向上並びに学力の向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
当該学年での学習内容の確実な定着（足立区学力調査結果の通過率を高め、都及び国調査の平均値を超える。）	区学力調査 通過率80%	国語＝81.5 算数＝81.9 2科＝81.7	国語、算数、2科の通過率とも区平均を上回る。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
別紙「平成30年度学力向上アクションプラン」評価シート参照					

重点的な取組事項－2 幼保小中の連携

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
連携の推進を通して、円滑な接続とともに、欠落のない接続を目指す。（平成31年度からの連携を視野に入れて進めていく。）	・効果的な連携ができたと考える教員100%	・年度末反省では効果的な連携ができたと考えられる教員100%の結果が得られた。	次年度より小中の連携校ブロックが変わる。今年度までの成果を継続していく。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
中学校教員との交流	・準備委員会 小中交流会6回を実施し、各校1回ずつ授業研究、協議会を実施する。 ・校長間の情報交換を密にする（月1回）	各教科の研究授業実施 ・9年間を見通した教科、生活指導計画の見直し ・学校の状況について情報を提供する（学力調査結果概要や生活指導状況等） ・西新井中及び鹿浜菜の花中双方と連携した交流を行なう。	・計画通り実施することができた。	・さらに、連携を深めていく。	◎
保育との交流	全教員による 保育園見学会の実施 ・年間3回以上の保育園児と低学年の交流事業 ・保育園への保護者会参加	・全教員で保育園、学童の施設見学と園長との話し合いを実施 ・授業体験、公開授業、図書室見学、給食体験、体育的学芸的行事等への招待 ・年長保護者会での校長講話の実施	・予定通り実施することができた。 ・従来の交流に加えて、昨年度より体育的行事への招待を行い、効果的であった。保育園児が小学校の校庭や体育に親しむ機会が生まれた。	・就学前の情報交換をさらに密に行うようにしていく。	○
教員同士と児童、生徒同士の交流	・出前授業：3回	出前授業：英語、算数	・英語の出前授業については実施する	・今後も同様に交流を展開	△

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
	以上 ・夏季補充教室：10日間 ・部活動、授業体験：1回 ・中学校説明会：1回 ・あいさつ運動の実施	等 ・夏季補充教室：指名補習 ・部活動、授業体験：学年末考査中 ・中学校説明会：生徒会が来校 ・生徒会と連携したあいさつ運動	ことができなかったが、英語を含め英語以外の教科も中学校での授業体験を実施し交流を深めることができた。 ・あいさつ運動は実施できなかった。	していく。	

重点的な取組事項－3 心の教育の推進

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
思いやりの気持ちと態度の育成 規範意識の向上 (親切、思いやり、礼儀、規則の尊重、公德心)	児童アンケート結果の向上 ・「あいさつ、返事、くつそろえ」に関する調査、児童の肯定的な自己評価80%以上	児童アンケート結果の向上 ・思いやりの心 80% ・規範意識 92% ・礼儀 85%	児童の自主的な活動を重視し、「あいさつ、返事、靴そろえ」をスローガンに指導をし、自己肯定感の育成を意識して教育活動を行ってきた。家庭との連携を図りながらさらに、意識的に教育活動する必要がある。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
道徳教育及び道徳の授業の充実	・道徳に関する研修会及び研究授業を3回以上実施する。(外部講師招聘) ・授業観察における道徳の授業を全教員が実施する。	・年間行事予定に校内研究日を設け、道徳の研修会を、年間3回以上行う。 ・授業観察時に各教員年間1回以上道徳を行い、校長より指導講評を受ける。	・道徳の研究授業、研修会を、年間3回(6月、10月2月)行う。	・研究授業の際には、前都小道会長を講師に招き、指導講評をいただき研修を深めることができた。	◎
気持ちのよい挨拶の推進 規範意識の向上	・児童アンケートで、挨拶、規範意識に関する項目80%以上	・「あいさつ、返事、靴そろえ」を共通目標とし年間を通して指導する。 ・児童の挨拶運動を年間実施する。	・児童アンケート結果 思いやりの心80% 規範意識 92% 礼儀 85% ・PTA、地域と連携した挨拶運動の実施	・学校の中での挨拶は活性化したが、地域の中で、自分からすすんでとなると課題が見られる。今後さらに家庭・地域と連携し啓発していく。	△

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
交流活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・なかよし学級と普通学級の交流活動を実施（1学年1回） ・高野小特別支援学級と交流活動を実施（2回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・なかよし学級の児童と普通学級で授業や行事で交流を行う。 ・高野小学校と連携し、スポーツ、歌、ゲーム活動の交流を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なかよし学級の児童と普通学級で授業や行事で交流を実施した。 ・高野小学校と連携し交流を行う活動を計画的に実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の仕方について工夫して、心と心の交流を目指す。 	○
伝統文化を大切にする活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・校内俳句コンクール実施（年3回） ・環境カルタ大会、百人一首大会への参加 ・地域の伝統文化に関する出前授業を実施（1回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に俳句活動作品作りを行う。 ・環境カルタ大会、百人一首大会に向けての練習の機会として校内大会を実施する。（参加希望者のみ） ・地域の伝統文化の保存に取り組んでいる方々と連携して授業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予定通り実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は、さらに本校の特色になるように取り組んでいく。 	◎
地域や社会とのつながりや環境を大切にする活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年において環境教育を実施（各1回以上） ・児童会等で環境活動及び地域や社会に貢献する活動実施（3回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に中学年は足立区、東京都の環境について、社会科との合科で学ぶ。また5年生は鋸南で海浜清掃、6年生は日光の自然へと視野を広げ、発達段階に合わせて取り組ませていく。 ・代表委員会、環境委員会等で「なかまプロジェクト」「校内ごみゼロウイーク」などの環境活動・社会貢献活動を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予定通り実施することができた。環境委員会による環境活動を実施した。 ・鋸南自然教室では、鱸ヶ浦でのビーチコーミングを通して環境に関する意識を高めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より、児童の自主的な活動になり、地域や社会とのつながりについて意識する教育活動になった。 	○

3. 学校活動全般について

・児童の学力向上の取組として、全教員で授業力向上に取り組んできた。その結果、学力調査の結果も年々向上し、今年度、国語、算数、2科とも通過率8割を超えることができた。これは大きな成果である。また年間30回の若手教員研修会やミドルリーダー（中堅教員）研修会も実施し、組織としての教師集団の力を高めることをめざした。昨年度から朝のパワーアップタイム（読書）、昼のパワーアップタイム（基礎学力）も継続し、放課後補習や夏季休業中の補習、プレジデントタイムも充実させた。しかし、その中でもまだつまずきが解消されていない児童も見られる。今後もさらに、授業力向上や補習補充に力を入れていく。一方、体力向上の取り組みとし、投力向上のための取り組みや業間の持久走、なわとびタイムにも継続して取り組んできた。今後もバランスのとれた体力向上をめざしていきたい。

- ・ 4年～6年の有志児童で構成されている「鹿一金管バンド」は、全校の1割以上の児童が参加し、年間を通して朝練習を行い、鹿浜地区合同音楽会や足立区研究演奏会で迫力ある素晴らしい発表をすることができた。また、男女ミニバスケットボールやサッカー大会、将棋大会、百人一首大会、環境かるた大会など、有志児童が積極的に校外での行事に参加し、意欲的な姿が見られた。
- ・ 学校・家庭・地域のボランティアの方との連携で、「野菜くずリサイクル活動」を行い、持続可能な社会づくりへの取り組みをすることができた。
- ・ 学校の様々な活動の様子について発信しているホームページとブログは、12月末現在80037アクセスを記録し、目標である7万アクセスを突破した。(昨年度同時期と比較し、33697アクセス増、月平均約2808アクセス) 今後も積極的に情報発信を行い、学校からの情報が保護者や地域にとってより身近なものとしていく。(ブログの会社に変更となったため、1月以降は再カウント)
- ・ 運動会、音楽学芸発表会等、教職員が一丸となって、運営にあたる姿が見られる。また教員のスポーツ大会、PTA 行事、スポーツ大会等においても、良好な結果が得られた今年度であった。学力の向上、児童への生活指導といった、学校として指導すべき基本となること一つ一つをしっかりと行いつつ、組織として、個人として目標達成に向けて真剣に取り組む結果、学校としてのチーム力が高まってきたと実感する。

「平成30年度 学力向上アクションプラン」評価シート

足立区立鹿浜第一小学校 学校長 木村浩昌

		アクションプラン	達成目標(=数値) <いつまで・何を・どの程度>	具体的な取り組み内容 <誰が、何を、どのように>	実施結果	コメント・課題	達成度 (◎○△●)
1	継続	朝読書	全児童 国語	毎週火水金 始業前15分	<p>【指導者体制】担任</p> <p>【取り組みのねらい・目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書の興味や読書習慣を身に付けさせる。 ・図書を選択する力を養う。 ・読書したことを適用させる。 <p>【指導方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ、ブックトーク ・テーマ読みやシリーズ読みなど。 	・読書感想文やお薦めの読書を発表を継続し、習慣化してきた。	◎
2	改善	音読・朗読 ・群読	全児童 国語	隔週木と土 始業前15分	<p>【指導者体制】担任(学年)</p> <p>【取り組みのねらい・目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詩や名文を暗記、暗誦する機会を設け、自国の文化の美しさに触れるとともに、美しい日本語に馴染む習慣を付ける。 ・暗記した詩や名文を群読化し音声表現力の向上を図る。 ・音読、群読の内容を外国語にも広げ、外国語教育や国際理解教育、オリンピック・パラリンピック教育とも関連させ、内容を深めていく。 <p>【指導方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カードを利用した個別指導 ・担任による一斉指導 	・今年度、音楽学芸発表会があり、そのための指導時間としては有効に活用できた。しかし学年音読・群読として発表の機会には具体的に設けることができなかった。	○
3	継続	昼学習 (パワーアップタイム)	全児童 国語 算数	毎週月火木金 5時間目前15分	<p>【指導者体制】担任</p> <p>【取り組みのねらい・目的】学習内容の復習・確認を行う。</p> <p>【使用教材】漢字、計算のプリント学習、ベーシックドリル</p>	・定着しつつある。学年間での指導内容の系統化が課題である。	○

4	継続	放課後補習教室	全学年 国語・算数の単元 テストの正答率 70%未満、 宿題未提出者	原則会議のない日は毎日。 放課後 16:20 まで。	<p>【指導者体制】 担任+副担任 4名</p> <p>【取り組みのねらい・目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現学年の学習内容のプリントやドリル学習をし、現在学習している内容をきちんと身に付けさせる。 ・宿題が提出できない児童に対しては、その日のうちに放課後指導等で課題を終了させてから下校させる。 	・定着しつつある。ターゲットとなる児童をどの範囲に絞って行うかが課題である。	○
5	継続	サマースクール	全学年 算数②③ 各学年約 10 名程度。	夏休み期間中の 10 日 各日 50 分	<p>【指導者体制】 担任+副担任 4名</p> <p>【取り組みのねらい・目的】 つまずきをさかのぼり、演習を中心に個別もしくは少人数指導。進度は各個人で異なるが、復習問題は、期間内に終了するように、1日に進める目安は伝える。</p> <p>【使用教材】 次へのステップ、ベーシックドリル担任の少人数指導のもと、進める。過去学年にさかのぼったつまずきをベーシックドリルで確認し、解けなかった問題の直しや週の授業内容で理解が完全でない内容の補充問題を行う。</p> <p>*管理職による個別指導（プレジデントタイム）実施→2、3年生の下位層児童を対象</p>	・定着しつつある。プレジデントタイムは、定期的な実施が課題である。	○
6	新規・改善	教師の指導力向上	若手教員研修会の実施 ミドルリーダー研修会の実施 授業観察アドバイスシート	年間 30 回 年間 10 回 毎月一人当たり 1 回ずつ (10 回×教員数)	<p>【指導者体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手教員研修（校長、主幹教諭、主任教諭） ・ミドルリーダー研修（副校長、主幹教諭） ・授業観察（校長、副校長） <p>【取り組みのねらい・目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足立スタンダードによる授業をしっかりと定着させる。 ・学習環境を整え授業規律を徹底させることを基本とし、授業に集中できることをあたり前とする。 ・学力調査の結果について詳細を分析し、その具体的な方策をたて、全教員が一丸となり徹底して実践を継続していく。 ・問題解決的な学習を実施し、主体的・対話的で深く学べる学習の機会を増やし、授業を充実させる。 	・若手研修会の定着化し、かつ主幹教諭が中心となり、運営できるようになった点が成果である。	◎